

「多賀城スコール」(宮城県多賀城市)

取組の概要や経緯

震災をきっかけとして、不登校や不登校傾向の子どもが増加傾向にあり、その背景には家庭環境など様々な要因が複雑に絡みあっており、学習意欲の低下につながっている。そのため、子供の学習意欲を向上させる取り組みを、地域・家庭・学校で連携する仕組みが必要である。

内容

地域の地区公民館において、小中学校の自主学習の取り組みを支援する事業「多賀城スコール」を行った。夏季休業に3日間、冬季休業に2日間の計5日間開催し、東北学院大学の大学生ボランティアに子どもたちの学習の支援や見守り、時には話し相手として子供たちを支援してもらい、最寄りの地区公民館において実施した。

サマースコールは、小中学生延べ117名、学生ボランティア40名、ウィンタースコールでは小中学生延べ89名、学生ボランティア20名が参加し、このスコールを通じて学習意欲が向上した児童生徒が多かった。

ポイント

- ①地域の公民館で実施
- ②大学生ボランティアの協力
- ③子どもたちの自主学習への意欲を支援する取り組み

成果

・スコールに参加した小中学生にとってアンケートでは、サマースコールでは、主体的に学習に取り組めた児童生徒の割合は、小学生90.4%、中学生は93.3%、小中合わせると91.6%であり、サマースコールを通じて自分から勉強しようという気持ちになった児童生徒が多かった。また、安心して学習に取り組めた児童生徒の割合は、小中学生とも100%であり、小中学生とも集中して学習に取り組むことができたと評価できる。

・ウィンタースコールでは、主体的に学習に取り組めた児童生徒の割合は、小学生88.5%、中学生90%で、ウィンタースクールを通じて自分から勉強しようとする気持ちになるなど、前向きな意見が見られたため、効果的な取り組みであったと評価している。また、安心して学習に取り組めた児童生徒の割合は、小学生97.1%、中学生100%で、小学生はやや集中できない部分も見られたが、中学生は比較的集中して学習に取り組むことができた。

今後の方向性

- ・地域に根差した活動としていくため、大学生ボランティアだけでなく地域住民のボランティアを積極的に活用していく。
- ・コミュニティスクール事業の目玉として継続して実施していく。